

ニーズ・シーズマッチング交流会2022(大阪会場)

令和4年11月29日(火)15:00~15:20

「盲ろう者に必要とされる支援機器、開発にあたり協力できること」

社会福祉法人 全国盲ろう者協会
常務理事・事務局長 橋間 信市

<盲ろう者について>

1. 盲ろう者(deafblind)とは

ヘレン・ケラーと言うとご存じの方も多いただろうか。

視覚と聴覚の両方に障害を併せ持つ人。

2. 盲ろう者の人数

全国に盲ろう者が約1万4千人

身体障害者手帳に、視覚と聴覚の両方の障害が明記されている人の数。

約8割が65歳以上の高齢者。

(2012年度「盲ろう者に関する実態調査」)

3. 盲ろう者の状態・程度

一口に「盲ろう」といっても、その見え方や聞こえ方の程度によって、大きく分けると、以下の四つのタイプがある。

全盲ろう : 見えない・聞こえない

全盲難聴 : 見えない・聞こえにくい

弱視ろう : 見えにくい・聞こえない

弱視難聴 : 見えにくい・聞こえにくい

4. 盲ろうになるまでの経緯

障害の発症の順序などによっても、以下の四つのタイプに分けられる。

先天性の盲ろう児者 : 言語獲得以前の幼少期から、視覚と聴覚に障害が発生した方。

「盲ベース」の盲ろう者 : 視覚障害がベースにあって、のちに聴覚障害が発生した方。

「ろうベース」の盲ろう者 : 聴覚障害がベースにあって、のちに視覚障害が発生した方。

上記のいずれでもない成人期の盲ろう者 : 「健常」の状態から視覚と聴覚に障害が発生した方。

5. 盲ろう者のコミュニケーション方法

手書き文字:

盲ろう者の手のひらに文字を書いて伝える方法。「手のひら書き」とも言う。

音声:

盲ろう者の耳元や補聴器のマイク等に向かって話す方法。

点字:

「ブリスト」という点字タイプライターと、盲ろう者の指を点字の6点に見立てて直接たたく「指点字」という二つの方法がある。

手話:

手話の形を盲ろう者が触って読み取る「触手話」と、盲ろう者の見え方に合った範囲で手話を表す「弱視手話」という二つの方法がある。

筆談:

通訳者が紙やタブレットなどに書いた文字を、盲ろう者が読む方法。

指文字:

日本語式(五十音式)、ローマ字式があり、盲ろう者は見たり触ったりして読み取る。

パソコン:

通訳者がパソコンで入力した文字を、盲ろう者が画面で読む方法。

先天性盲ろう児者のコミュニケーション:

上記のような言語的な方法と同様に、オリジナルサイン、視覚的・触覚的シンボルや物などの非言語的な方法を使用している盲ろう児者もいる。

6. 盲ろう者のニーズと通訳・介助

(1)「盲ろう」という障害の特徴と三つの困難

①他者とのコミュニケーション:

人と話をしたり、集まり(会議)に参加したり、店で店員とやりとりをしたりする等、人とのコミュニケーションが困難。

②情報の入手&周囲の状況把握:

新聞、テレビ、ラジオ、インターネット等からの情報だけでなく、自分の身の回りには誰がいて何をしているのか、何があってどういう状況になっているのか、といった基本的な環境情報を自力で得ることが困難。

③移動:

一人で自分の行きたいところへ自由に外出することが困難。

(2)通訳・介助員とは

盲ろう者に適したコミュニケーション方法で情報保障(会話の通訳、周りの状況説明など)をし、移動の支援(介助)を行う。これを業務とするのが通訳・介助員。

<盲ろう者のICT機器等の活用について>

盲ろう者と言っても前述の通り、視覚・聴覚の障害の状態はさまざまである。

視覚の活用ができる人：

スマホ・タブレット・パソコン等を画面拡大機能、配色の変更機能等を工夫して、自分の見やすい方法で利用している。

聴覚の活用ができる人：

スマホ・タブレット・パソコン等の読み上げ機能を工夫して、自分の聞こえる状態で利用している。

全盲ろうの人：

スマホ・タブレット・パソコン等を利用するには、点字のみが頼りとなる。点字ディスプレイ一体型の「ブレイルセンス」、スマホ・タブレット・パソコンと点字ディスプレイを接続して、点字ディスプレイを頼りに利用している。

一般的に、盲ろう者の場合、視覚障害者向け、あるいは聴覚障害者向けに開発、提供されているものを、その人が使える範囲で(全ての機能は使えなくても)利用しているという実態がある。

盲ろう者の場合、視覚活用、聴覚活用が難しい場合は、点字に代表される触覚によるインターフェースが必要となる。

<コロナ禍におけるニーズ>

特に全盲ろう者の場合、簡単に独力で使える体温計が存在せず、そのニーズは非常に高い。

体温計をスマホやタブレットとBluetooth接続することで、点字ディスプレイに表示させる方法はあるが、これらを使いこなすにはハードルが高い。

したがって、全盲ろう者でも容易に触覚(バイブレーションによる振動パターンや点字等の仕組みを利用した)により体温を計ることのできる体温計が求められている。

誰でも使えるユニバーサルデザインの体温計を開発していただきたい。

その際には、当事者によるモニターテスト等の協力をさせていただけるとありがたい。

※ 体温計にとどまらず、あらゆる機器開発に、「誰でも使える」というコンセプトをお願いしたい。

以上